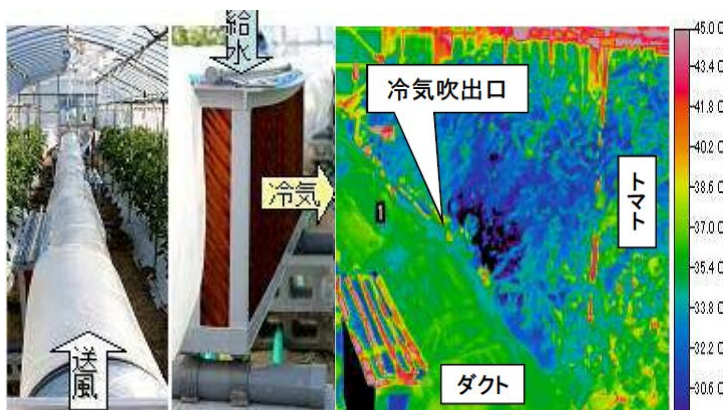




概要

- 農業では、高温による収量や品質の低下を防ぐため、コメや果樹等で高温に強い品種の開発・導入が進められています。
- また、施設栽培では、ハウス内の気温上昇から野菜や花きを守るため、熱線反射資材・簡易冷房・ドライミスト等、様々な高温抑制技術が導入されています。台風や積雪等の気象災害に耐えられるハウス施設も導入されています。
- 水産業では、海水温の高温化による魚介類の分布の変化や、それに伴う磯焼けが問題となっています。新たな増養殖技術、問題となる魚類の防除あるいは活用のための技術の開発が始まっています。

ハウス内高温抑制技術(兵庫県)



施設(左)と加湿冷却状況(右)

兵庫県では、高温期のハウス内の気温上昇への対策として、加湿冷却装置を設置しました。気温上昇抑制とトマトの生育促進効果が確認されています。

暖海性魚介類の活用に向けた研究(神奈川県)



暖海性魚介類のアイゴ。海藻を食害するため、問題となっている。

神奈川県では、既に暖海性魚介類による海藻類の食害が県下全体に広がっており、その対策が急務となっています。アイゴもその一つで、大量に水揚げされてもそのままでは経済的価値がないため、加工品開発など付加価値を高める技術開発を行うこととしています。